

## 第4回牧之原市学校再編計画策定委員会 次第

日時：令和2年4月14日（火）午後1時30分～  
場所：相良庁舎3階会議室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 振り返り

4 資料説明

5 議 事

○ 校数ごとのメリット・デメリットを整理する

○ 校数を決める上で重要と考えることを確認する

6 市長あいさつ

7 連絡事項

8 閉 会

## ■ 学校再編検討のための比較表

### 資料 1

#### 望ましい教育環境のあり方に関する方針に示されている条件

○次代を切り拓く力を育くむために、キャリア教育を軸とした小中一貫教育とコミュニティ・スクールを進める。

#### 【施設環境】

○通いたい・通わせたいと思われる魅力的な小中一貫校

○1学年3学級、建築後20年間は単学級にならない規模。

○安心・安全な施設(津波浸水想定区域外、防災機能の充実、耐震性能等)

○時代に対応した設備(ICT、教育活動、多様性、エコ等)

○施設の一部又は隣接地に市民と共有できる機能(地域の人の活動スペースの確保、複合化等)

○2030年までの開校を目指す

#### 【その他の視点】

○現在の中学校区を単位としてソフト事業(小中一貫教育等)を検討・試行しており、再編の学区は、現在の中学校区を分割しない方がソフト事業と合致する。

○新しい学校をできる限り人口が集中するエリア近くとし、徒歩又は自転車で通うことができる人数をなるべく多くすれば、予算を含めた通学の負担が少なくなる。

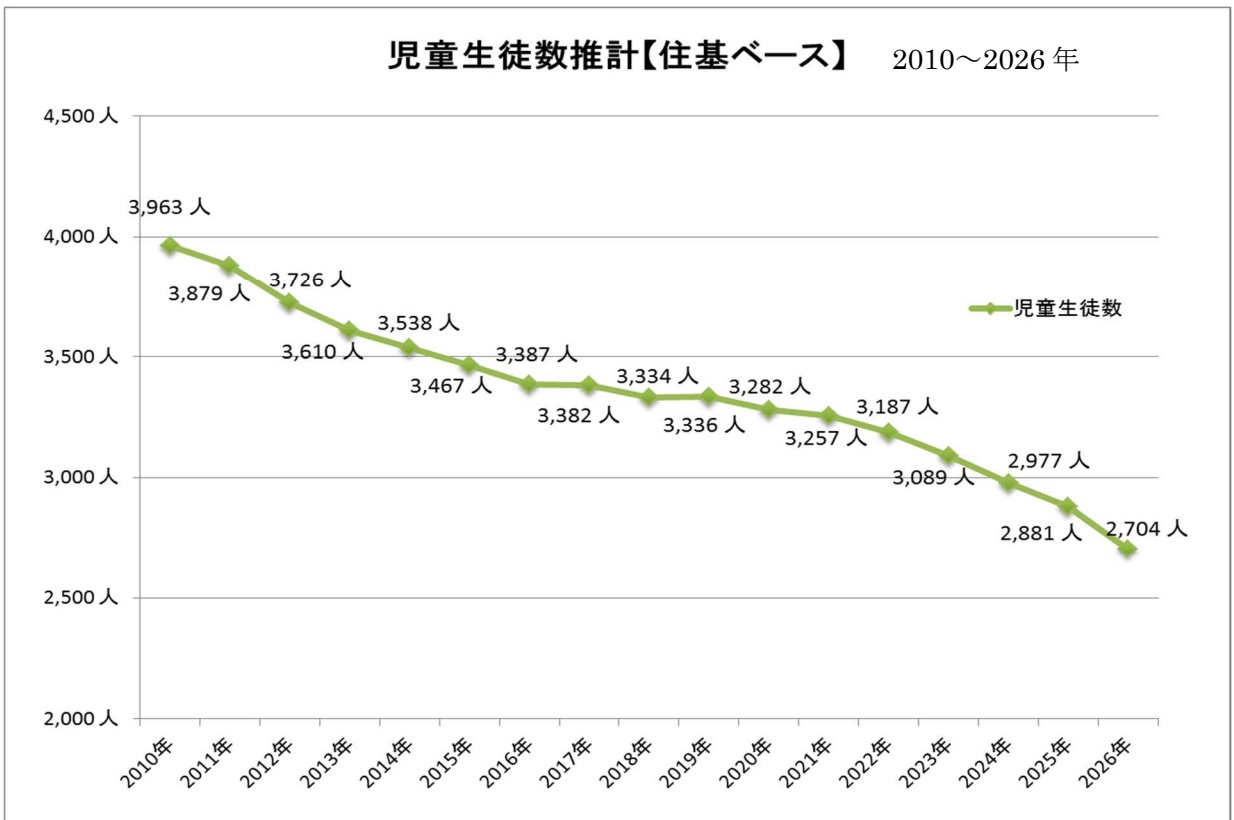
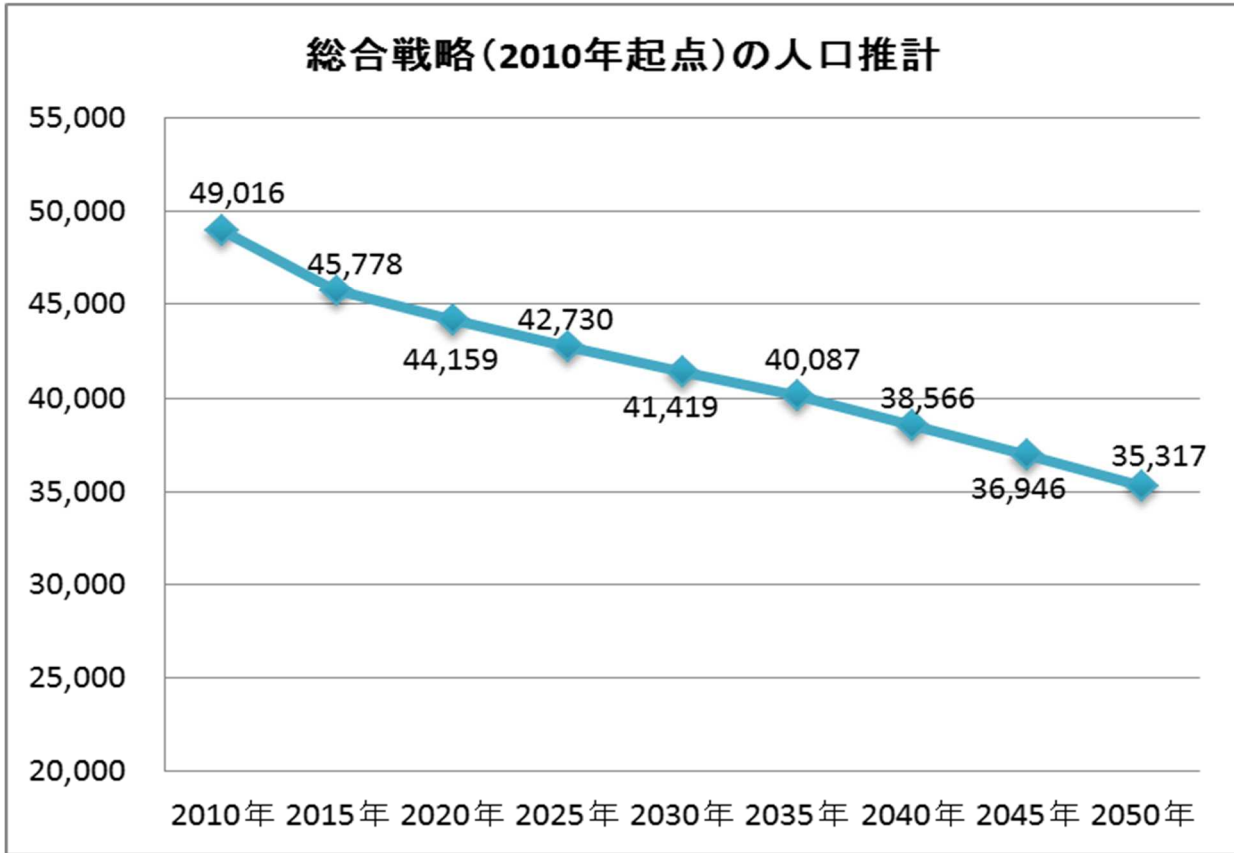
○12校中11校が築40年以上経過している(うち、築50年以上は5校)ため、今後建替え等の対応が必要となる。

○学校組合分も含めて考えるが、別に調整をする必要がある。

学校数	小中1校(市全域)	小中2校 ※地小を相中学区に含む・牧之原小学校を ①相中学区、②榛中学区のそれぞれに含んだバ ターン	小中3校 ※現在の中学校区。地小は相中学区に含む。	12校(現行のまま)
児童・生徒数	2026年(R8年)R2.4.1に住居基本台帳に登録がある人数を2030年として見込む。 ・児童生徒数 2,704人 ・1学年あたりの学級数 8~10クラス  ・2030年時点では規模が過大になってしまう。 ※適正規模校=1学年3クラス程度。	22026年(R8年)R2.4.1に住居基本台帳に登録がある人数を2030年として見込む。 ①相中学区 1,292人 3~5クラス 榛中学区 1,412人 4~5クラス ②相中学区 1,054人 3~4クラス 榛中学区 1,650人 5~6クラス  ・ほぼ適正または少し大きい。	22026年(R8年)R2.4.1に住居基本台帳に登録がある人数を2030年として見込む。 ・相中学区 1,054人 3~4クラス ・榛中学区 1,412人 4~5クラス ・牧中学区 238人 1クラス  ・3校のうち2校はほぼ適正又は少し大きい程度の規模であるが、学組の1校は現時点で単学級であるため条件を満たしていない。	2020年(R2)現在 適正規模校は小学校9校中3校、中学校3校中2校。  ・2030年には、適正規模校の数は小学校は変わらない、中学校は1校になり、単学級の学校は1学年の人数は一桁になる学年も現れる。 ・2050年には半数の小学校に複式学級ができる可能性が高い。
教育活動	・クラス替えができる。 ・多様な人とさまざまな体験をすることが可能となる。 ・大規模校となるため、特別教室、体育館等の使用のやりくり工夫が必要。又は数量を増やす必要がある。	・クラス替えができる。 ・多様な人とさまざまな体験をすることが可能となる。 ・活動内容に集団規模を合わせることができる。	・現在の中学校区となるため混乱が少ない。(地小除く) ・3校中1校のみ人数が少なく単学級になってしまう。(人数のバランスが悪い) ・1校のみクラス替えができない。また、活動に応じた集団規模を選ぶことが難しい。	・地区に学校があるため、教育活動に地域の人が参加しやすい。 ・多くの学校が単学級となるため、クラス替えができなく、活動に応じた集団規模を選ぶことも難しい。
施設・設備	・1校のため、予算を集中することができ、他の校数と比べて充実した施設・設備とすることができる。 ・時代に対応した教室や設備があり、安心・安全な施設にすることができる。 ・規模が大きいため、教室数を増したり、体育館等の数を増やすか大規模のものを造る必要がある。	・新築又は長寿命化改修工事をする事で時代に対応した教室や設備があり、安心・安全な施設にすることができる。 ・同規模の学校を2校つくる必要がある。	・新築又は長寿命化改修工事をする事で時代に対応した教室や設備があり、安心・安全な施設にすることができる。 ・3校のうち1校が小規模校となる。また、学組であるため、菊川市の理解を得ながら進める必要がある。	・12校中11校が築40年を超える校舎を有しているため、この校数を維持するには大きな費用がかかる。校数が多い分1校あたりの施設・設備に掛けることができる金額が限られる。
場所	・5ヘクタール程度の土地を想定。 ・津波浸水想定区域外に候補地有。	・4~5ヘクタール程度の土地を想定。 ・津波浸水想定区域外に候補地有。	・2校は、4~5ヘクタールを想定。学組は、現在の敷地。 ・津波浸水想定区域外に候補地有。	・12校中4校が津波浸水想定区域に立地。

学校数	小中1校(市全域)	小中2校 ※地小を相中学区に含む・牧之原小中学校を ①相中学区、②榛中学区のそれぞれに含んだパ ターン	小中3校 ※現在の中学校区。地小は相中学区に含む。	12校(現行のまま)		
建設費用	<p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● つくば市立秀峰筑波義務教育学校 規模 1,126人、1学年4クラス 1人あたりの面積 11.8㎡  設計費・総工費 約52.7億円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 河内町立かわち学園 規模 444人、1学年2クラス 1人あたりの面積 10.5㎡  設計費・総工費 約24.5億円</li> </ul>		<p>190億</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての学校について、耐用年数が経過後新築した場合の合計額の想定。</li> <li>・校舎及び体育館を現在の規模で建替えた場合の設計及び建設費のみ。(武道場、プール等は含んでいない)</li> </ul>		
30年間の維持管理費	<p>【2030～2059年】 ・建築後30年間 合計 約40～50億円</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【参考】校舎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・築20年 中規模改修 10万円/㎡</li> <li>・築40年 大規模改修 15万円/㎡</li> <li>・メンテナンスは毎年1,000円/㎡</li> </ul> <p>【参考】体育館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・築20年 中規模改修 6万円/㎡</li> <li>・築40年 大規模改修 8.6万円/㎡</li> <li>・築60年 建替え 18.5万円/㎡</li> </ul> <p>【参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設計は建築の前年、建築費用の10%</li> <li>・解体 3～5万円/㎡</li> <li>・長寿命化改修は新築の2/3のコスト</li> </ul> <p>※県単価参考。</p> </div>			<p>【2030～2059年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①75億(左記のメンテナンス料のみ。)</li> <li>②合併後13年間の平均維持管理費2.3億。 2.3億×30年=69億</li> </ul>		
補助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育学校にする場合は1/2補助有。ただし、規模の条件で使えない場合有。</li> <li>・義務教育学校にしない場合は、小学校の統合に1/3～1/2補助有。</li> <li>・補助は、建築基準額に対するもので、現在の基準額は約20万円。そのため、建築単価見込み額の約1/4が補助額と考えられる。</li> <li>・長寿命化改修の場合は建築基準額が約18万円。</li> </ul> <p>【事例】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>● つくば市立秀峰筑波義務教育学校</li> <li>・公立学校施設整備費負担金 1,668,611千円</li> <li>・起債 2,417,900千円</li> <li>・一般財源 1,066,312千円</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 河内町立かわち学園</li> <li>・公立学校施設整備国庫負担金 737,745千円</li> <li>・学校教育施設等整備事業(校舎・体育館) 936,400千円</li> <li>・学校教育施設等整備事業(その他) 139,500千円</li> <li>・公共施設整備基金 245,000千円</li> <li>・成田国際空港騒音防止対策事業費助成金 128,911千円</li> <li>・一般財源 257,893千円</li> </ul> </td> </tr> </table>			<ul style="list-style-type: none"> <li>● つくば市立秀峰筑波義務教育学校</li> <li>・公立学校施設整備費負担金 1,668,611千円</li> <li>・起債 2,417,900千円</li> <li>・一般財源 1,066,312千円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 河内町立かわち学園</li> <li>・公立学校施設整備国庫負担金 737,745千円</li> <li>・学校教育施設等整備事業(校舎・体育館) 936,400千円</li> <li>・学校教育施設等整備事業(その他) 139,500千円</li> <li>・公共施設整備基金 245,000千円</li> <li>・成田国際空港騒音防止対策事業費助成金 128,911千円</li> <li>・一般財源 257,893千円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化による新築補助なし。</li> <li>・改修その他について補助有。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● つくば市立秀峰筑波義務教育学校</li> <li>・公立学校施設整備費負担金 1,668,611千円</li> <li>・起債 2,417,900千円</li> <li>・一般財源 1,066,312千円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 河内町立かわち学園</li> <li>・公立学校施設整備国庫負担金 737,745千円</li> <li>・学校教育施設等整備事業(校舎・体育館) 936,400千円</li> <li>・学校教育施設等整備事業(その他) 139,500千円</li> <li>・公共施設整備基金 245,000千円</li> <li>・成田国際空港騒音防止対策事業費助成金 128,911千円</li> <li>・一般財源 257,893千円</li> </ul>					
通学手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールバスは必須。</li> <li>・市の中心近くに建てた場合でも、多くの児童生徒がスクールバス等を利用する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立地によっては、児童生徒の半数以上が、徒歩又は自転車通学が可能。</li> <li>・スクールバスは必須。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左記に同じ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの児童生徒が徒歩又は自転車通学が可能。</li> <li>・令和元年度は198人が通学補助を受けている。</li> <li>・バス通学は半額補助 58人</li> <li>・徒歩 年間5,000円補助 103人 (小学1,2年生 2.5Km、3～6年生 3km以上)</li> <li>・自転車 年間8,000円補助 37人 (中学生 6km以上)</li> </ul>		

■ 人口及び児童生徒数の推計



【説明】

2019 年までは 5/1 現在、2020 年は 4/1 現在の児童生徒数。2021 年以降は、住民基本台帳の年齢別人口の数字。小中学校へ進学する際の減少率は入れていない。

【参考：住基人口 R2.4.1 現在 日本人・外国人】

生まれた年度		年齢	学年	人数
H17	2005	14	中3	397
H18	2006	13	中2	404
H19	2007	12	中1	403
H20	2008	11	小6	404
H21	2009	10	小5	369
H22	2010	9	小4	388
H23	2011	8	小3	379
H24	2012	7	小2	397
H25	2013	6	小1	345
H26	2014	5		337
H27	2015	4		342
H28	2016	3		299
H29	2017	2		284
H30	2018	1		274
R 1	2019	0		216

## ■市内小中学校における児童生徒数の推移予測【2020.4.1住民基本台帳人口】

資料2-2

年度	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	実績←	R3-R8は住民基本台帳登録者数がベース					
											R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
相良小学校	638	621	608	604	600	594	569	550	527	524	491	471	452	425	389	341	306
菅山小学校	151	151	148	150	142	144	145	154	148	152	159	142	138	127	125	106	88
萩間小学校	166	148	134	128	120	113	115	116	129	137	150	155	162	156	145	135	122
地頭方小学校	254	242	235	223	225	227	223	221	207	205	192	194	190	185	174	171	155
川崎小学校	503	501	462	447	436	430	448	443	439	432	421	406	399	374	370	354	336
細江小学校	494	497	483	477	493	486	452	444	449	432	416	410	401	392	382	380	375
勝間田小学校	150	139	139	128	139	131	128	131	140	142	139	132	133	132	111	98	91
坂部小学校	112	103	102	102	96	100	102	110	107	111	113	117	119	115	124	119	108
市立小学校計	2,468	2,402	2,311	2,259	2,251	2,225	2,182	2,169	2,146	2,135	2,081	2,027	1,994	1,906	1,820	1,704	1,581
相良中学校	557	529	492	463	456	437	449	433	419	406	398	403	386	393	378	398	383
榛原中学校	684	690	685	660	600	570	533	555	543	562	565	574	553	542	529	530	502
市立中学校計	1,241	1,219	1,177	1,123	1,056	1,007	982	988	962	968	963	977	939	935	907	928	885
牧之原小学校	169	166	150	153	156	156	142	151	171	176	173	173	184	176	169	159	151
牧之原中学校	85	92	88	75	75	79	81	74	55	57	65	80	70	72	81	90	87
組合小中学校計	254	258	238	228	231	235	223	225	226	233	238	253	254	248	250	249	238
小中学校全体	3,963	3,879	3,726	3,610	3,538	3,467	3,387	3,382	3,334	3,336	3,282	3,257	3,187	3,089	2,977	2,881	2,704

※2019年までは5/1現在、2020年は4/1現在の数字となっている。

※2021年以降は住民基本台帳上の年齢人口。（小中学校に上がる時の減少率は掛けていない）

※学校組合の菊川市分の児童生徒数は現在の在籍率を市の人数に掛けている。

■学校数ごとの中学校区別小学校児童数及び学年平均学級数の推計

資料2-3

	2020年		2026年		2030年見込み							
	R2.4.1現在の 在籍数		R2.4.1現在の住 基人口からの推計		1校		2校（牧之原小中学校を相良・榛原に入 れた場合）		3校			
	人数	学年 学級数	人数	学年 学級数	人数	学年 学級数	人数	学年 学級数	人数	学年 学級数	人数	学年 学級数
相良小学校	491	2～3	306	1.5	1,732	8.2	822	3.9	671	3.2	671	3.2
菅山小学校	159	1	88	0.4								
萩間小学校	150	1	122	0.6								
地頭方小学校	192	1	155	0.7								
牧之原小学校	149	1	151	0.7			910	4.3	1,061	5.1	910	4.3
川崎小学校	421	2～3	336	1.6								
細江小学校	416	2～3	375	1.8								
勝間田小学校	139	1	91	0.4								
坂部小学校	113	1	108	0.5								
相良中学校	398	4	383	3.6								
牧之原中学校	54	1	87	0.8								
榛原中学校	565	6	502	4.8								
学校全体（1校）	3,247	117	2,704	77.3	2,704	65.4	1,292	33.0	1,054	33.0	1,054	28.8
学校全体（2校）		特支除く					1,412	32.4	1,650	32.4	1,412	32.4
学校全体（3校）											238	4.5

※現状の学年学級数は、学校で主な学級数を入れている。（例：1学年のみ2学級、他1学級→1学級）

※学校区は2校の場合は、地頭方は相良中学校区に入れ、牧之原小中学校は、学校区内を行政区で分けずに、相良・榛原のいずれかに全員が入った場合で作成している。

※3校の場合は、現在の中学校区を基本とし、地頭方は、相良中学校区に入れている。

※学級数は、人数に応じて計上。

## ■ 建設費用と補助金の事例

R2.4.14 第4回学校再編計画策定委員会資料

学校	学校名	つくば市立秀峰筑波義務教育学校		河内町立かわち学園		
	人数・クラス数	1,126人	1学年4クラス	444人	1学年2クラス	
	1人あたりの㎡	11.8㎡		10.5㎡		
事業費	項目	金額	備考	金額	備考	
	設計	133,920千円		96,470千円		
	総工費	5,078,246千円		2,348,979千円		
	内訳	造成	55,922千円	旧筑波障害者センター解体工事を 含む	- 千円	
		校舎	4,132,404千円	体育館を含む	1,708,560千円	
		体育館	-千円		437,292千円	
		プール	889,920千円	グラウンド整備工、道路付け替え工、 駐輪場棟、部室棟、体育倉庫棟	- 千円	
		その他	千円		203,127千円	給食室整備事業
	用地(土地購入)	千円	元々の市有地を基本として、一部に借 地や交換による取得等を実施した	- 千円		
	監理	60,112千円				
総額	5,272,278千円		2,445,449千円			
財源	内訳	金額	補助金名・事業債名・基金名	金額	補助金名・事業債名・基金名	
	補助金	1,668,611千円	公立学校施設整備費負担金	737,745千円	公立学校施設整備費国庫負担金	
	起債	千円		936,400千円	学校教育施設等整備事業(校 舎・体育館)	
	起債	2,417,900千円		139,500千円	学校教育施設等整備事業(その 他)	
	基金繰入	千円		245,000千円	公共施設整備基金	
	その他	千円		128,911千円	成田国際空港騒音防止対策事業 費助成金	
	一般財源	1,066,312千円		257,893千円		
	総額	5,152,823千円		2,445,449千円		